

《報告》

山口市小郡山手下「栄山自然観察の森」で確認された淡水産貝類等について

米川浩史

希少野生動植物種保護支援員 / NACS-J 自然観察指導員 / 山口むしの会会員

はじめに

山口市小郡地域（旧吉敷郡小郡町）は山口県の中部に位置し、2005年（平成17年）10月1日に周辺の他の町とともに山口市に合併された。

筆者は、幼少期より小郡地域に居住しており、2018年（平成30年）より故郷である小郡の昆虫などの生物記録を残すべく、山口市小郡総合支所（旧小郡町役場）西側の山裾にある栄山公園を中心とする「栄山自然観察の森（山口市小郡下郷731 / 小郡山手下）」（図1）及びその近辺にて昆虫類や水生生物等を中心とした生物の定点調査を定期的に行っている。

この度、同地域の淡水産貝類等について重点的に調査を行ったことから、この場を借りて結果を報告させていただく。

調査地の概要

栄山自然観察の森は禅定寺前山の麓に位置し、旧小郡町が地域総合整備事業の一環として1995年度（平成7年度）から1999年度（平成11年度）にかけて総工費約2億9千万円かけて自然を体験、学習する場として整備された広さ約4万2千 m^2 の「自然を体験・学習できるネイチャーコミュニケーションパーク」である。

図2のとおり栄山自然観察の森は敷地内に栄山公園、古郷池（古郷溜池）、大歳溪流及び砂防ダム（砂防えん堤）、



図1. 「栄山自然観察の森」の位置
国土地理院 HP の地理院地図 Vector より作成。

展望台（現在、閉鎖中）などがあり、これらを結ぶ山道は散策路や冒険路として整備され、周辺にはクヌギ、コナラ、アラカシ、ヤマモモ、ヤブツバキ等の樹木が植生し、様々な動植物を観察することができる。

この自然観察の森には北側に「大歳川」が、南側に「矢足天井川」が存在し、それぞれ山側から市街地方面に流れており、栄山公園周辺には山からの湧き水による複数の小川も存在している。

調査方法

調査にあつては、図3のとおり調査地に存在する川等を「水域 I」から「水域 VII」の7系統に分け、2025年（令和7年）11月30日と同年12月7日の2日間に各水域内の複数のポイント（1～19）で、貝類を中心とした水生生物の確認を実施した。



図2. 「栄山自然観察の森」の詳細位置
国土地理院 HP の地理院地図 Vector より作成.

また、過去の生物調査における同一水域内での結果を踏まえ、ポイント A, B を追加設定した。

各ポイントでの作業は概ね 5 ～ 15 分程度で、周辺水面・水中の観察、底面の石や落ち葉等の除去による確認等を行い、特に微小貝類については、底面に沈む落ち葉等を回収し、主に底面接地側への付着状況を目視確認した。

発見した生物は適宜採集し、エチルアルコール等を用いて固定処理をして標本とし、同定及び図版 I, II-8 の作成については、豊田ホテルの里ミュージアム館長の増野和幸氏にお願いした。

なお、標本については、筆者自宅にて保管している。

調査地概要

「水域 I」(図 4-1) は栄山自然観察の森「散策路 2」付近の廃屋がある草地 (小郡下郷 693 付近) に流れる山からの湧き水によって作られた小川で、廃屋方面から山肌に沿って緩やかに流れる水深 1 ～ 2 cm 程度の小川 (ポイント 1, 2), ポイント 1 付近から分岐して草地を南東方面に横断し (ポイント 3), 草地から 2 m 程度下がった土地 (ポイント 6 図 4-2) に緩やかに流れる水深 1 ～ 2 cm 程度の小川, ポイント 1 の上流部より廃屋手前に流れ出した水が溜まった止水域 (ポイント 4) の 5 か所で、全て 2025 年 11 月 30 日に調査を実施。

「水域 II」(図 4-3) は栄山公園横にある山口大神宮小郡遷拜所横の法面沿いから「矢足天井川」に注ぐ、山からの湧き水による流れが緩やかな水深 1 cm 程度の小川で、手水舎から南西付近の位置 (ポイント 5-1) と小川と同じ湧き水を利用した手水舎の排水部周辺 (ポイント 5-2) を 2025 年 11 月 30 日に調査実施。

「水域 III」(図 4-4) は「栄山自然観察の森・散策路 2」沿いの窪地を流れる水深 1 cm 程度の流れが緩やかな小川で、周りを木々に囲まれて薄暗い場所 (ポイント 5) にて 2025 年 11 月 30 日に調査実施。

「水域 IV」は栄山公園敷地内を流れる「矢足天井川」流域で、上流部の砂防ダム周辺 (ポイント 9), 石の五重塔が設置してある人工滝周辺 (ポイント 10), 「もみじ谷」に架かる橋周辺 (ポイント 11) について 2025 年 12 月 7 日に調査を実施したが、いずれも山からの湧き水が枯れ、水がなく乾燥した底面が露出した状況であった。なお、ポイント 11 の下流部 (ポイント A 図 4-5) は水が流れており、水域 1 ～ 4 に比べ水流は早く、水深も 10 ～ 15 cm 程度であった。この場所は以前 (2025 年 4 月 12 日) に調査を実施したことから今回の報告対象とした。



図 3. 調査対象の水域 (I ～ VII) とポイント (1 ～ 19, A, B) 位置. ※矢印は水が流れる方向を示す.

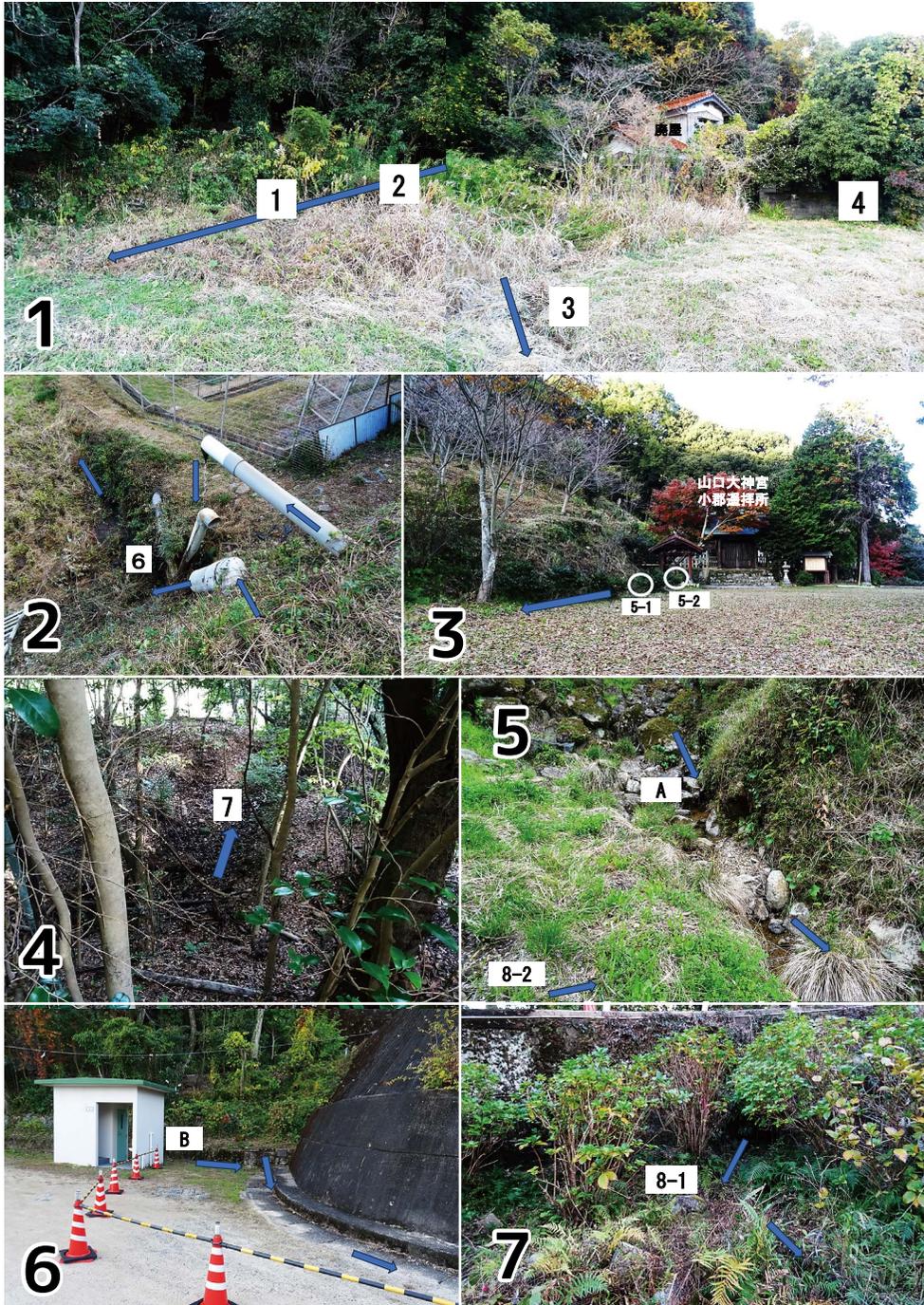


図4. 調査地点の環境(1)

1. 水域Ⅰ・ポイント1～4; 2. 水域Ⅰ・ポイント6; 3. 水域Ⅱ・ポイント5-1, 5-2; 4. 水域Ⅲ・ポイント7; 5. 水域Ⅳ・ポイントA; 6. 水域Ⅴ・ポイントB; 7. 水域Ⅴ・ポイント8-1. 1-4, 6は2025年11月30日撮影, 5, 7は2025年12月7日撮影. ※矢印は水が流れる方向を示す.

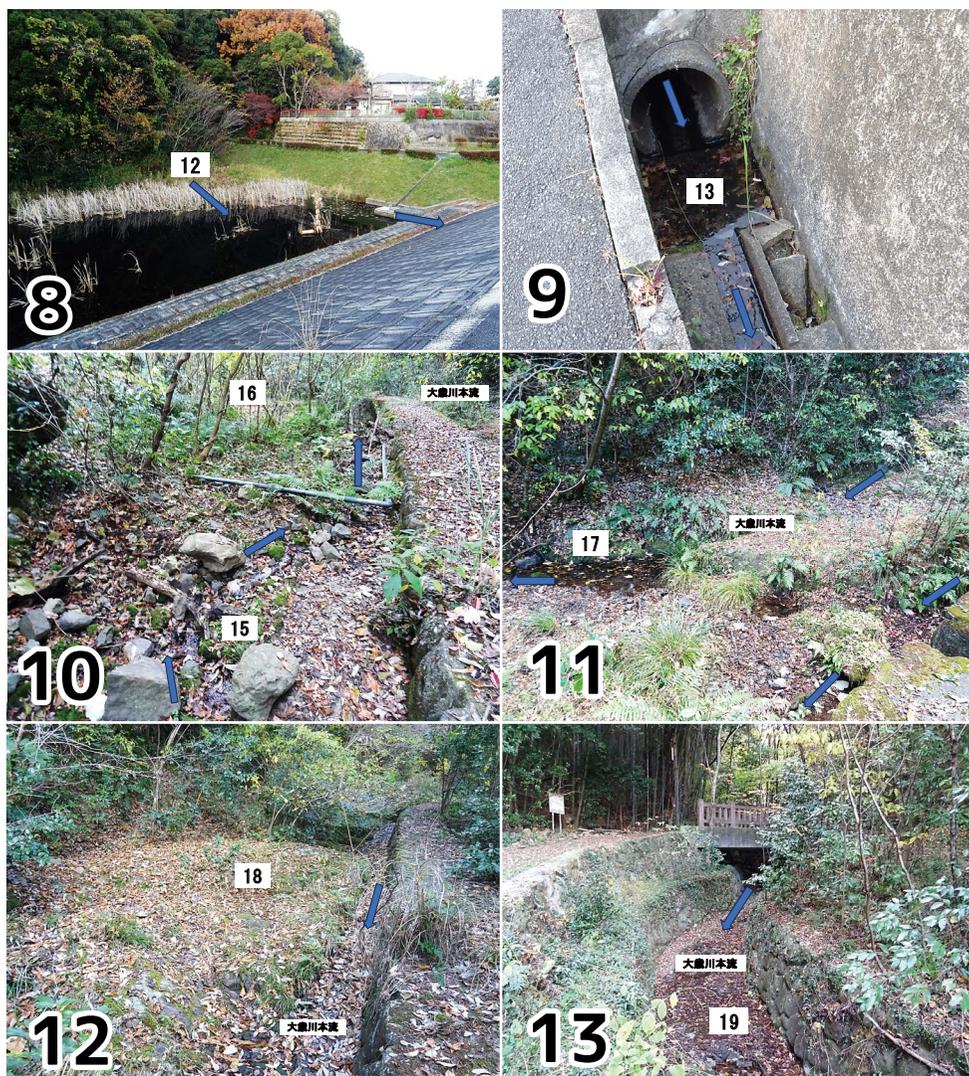


図 5. 調査地点の環境 (2)

8. 水域Ⅵ・ポイント 12 (古郷池) ; 9. 水域Ⅵ・ポイント 13; 10. 水域Ⅶ・ポイント 15, 16; 11. 水域Ⅶ・ポイント 17; 12. 水域Ⅶ・ポイント 18; 13. 水域Ⅶ・ポイント 19. 8は 2025 年 11 月 30 日撮影, 9-13 は 2025 年 12 月 7 日撮影. ※矢印は水が流れる方向を示す.

「水域Ⅴ」は栄山公園駐車場奥にある公衆トイレ近辺から公園敷地内の市道下を經由して矢足天井川に注ぐ側溝ラインで、上流部にあたる公衆トイレ裏 (ポイント B 図 4-6) はかつて山側から水が流れこんでいたが、現在は水が枯れている。また、側溝は市道下まで蓋で覆われており中を確認することができないが、市道下から矢足天井川までの間は未舗装の地面を流れる水深 1 cm 未満の小川 (ポイント 8 図 4-7) となっている。なお、ポイント 8 については、2025 年 12 月 7 日の調査結果を踏まえ、本報告では市道寄りの場所を「8-1」、矢足天井川合流部周辺を「8-2」と整理している。

「水域Ⅵ」は古郷池 (図 5-8) 周辺及び池から流れる水路であり、古郷池山側の湿地部 (ポイント 12) と住宅地横を流れる水路の柵周辺 (ポイント 13 図 5-9) を 2025 年 12 月 7 日に調査した。

「水域Ⅶ」は大歳川流域で、砂防ダム上流部 (ポイント 14)、大歳溪流部にあたる大歳川横の水深 1 cm 以下の小川 (ポイント 15 図 5-10)、ポイント 15 の下流部にある元・菖蒲園 (ポイント 16)、大歳川本流 (ポ

イント 17 図 5-11), 本流の横にある止水域 (ポイント 18 図 5-12), 秋葉大権現近くの本流部 (ポイント 19 図 5-13) を 2025 年 12 月 7 日に調査した。

なお, 大歳川は時期や天候などの状況によって水量や流速が変化し, 同年 12 月 7 日の調査時は, 砂防ダム上流部は水が枯れており, ポイント 19 の下流部についても水量が少ない状況(水深 1 cm 程度)であった(矢足天井川の水量や流速についても時期等によって異なる)。

栄山自然観察の森の淡水産貝類等の調査記録

本調査により得られた淡水産貝類やその他水生生物について以下に一覧にした。種毎に【記録】及び【備考】を加えた。【記録】は本調査で確認された水域及びポイント名(「水域 I・ポイント 1」の場合は、「水 I-1」と記載), 日付(採集日 yyyy-mm-dd), 個体数の順に示した。採集/確認者については全て筆者であることから, これを省略, また, 水域存在地である“山口県山口市小郡下郷(小郡山手下)”についてもこれを省略した。

なお, 調査時に採集をしていない場合は「個体数」の後に「確認」と記載し, 確認数には採集数を含めておらず, 明確な場合を除き, 幼体・成体の区別はしていない。また, 採集時に生存していなかった個体(例: 死殻)で, 標本が存在するものについては「個体数」の後に「回収」と記載した。【備考】には確認状況等の補足情報を記載した。

貝類における学名および配列は基本的には増野・川野(2020)を参考にした。また, 軟甲綱(甲殻類)については豊田・関(2019)を参考にした。

調査結果

【貝類】

腹足綱 Class Gastropoda

新生腹足目(中腹足目) Order Caenogastropoda

ヌマツボ科 Family Amnicolidae

1. ホラアナミジンニナ *Moria nipponica* (Mori, 1937) (図版 I-1, 2) (淡水産)

【記録】水 I-1, 2025-xi-30, 3 exs.; 水 I-2, 2025-xi-30, 4 exs. (図版 II-1); 水 I-3, 2025-xi-30, 7 exs.; 水 I-6, 2025-xi-30, 14 exs.; 水 II-5-1, 2025-xi-30, 12 exs.; 水 V-8-1, 2025-xii-7, 3 exs.; 水 VII-15, 2025-xii-7, 4 exs.

【備考】水底の落ち葉底面接地側に付着(図版 II-1)。水域 I では止水域(ポイント 4)以外の各ポイントで多数発見。水域 V と VII においては局地的に少数発見。なお, ポイント 2, 3, 5, 6 においては通常個体(図版 I-1)に加え殻表面が黒くなった個体(図版 I-2)も見つかった。

カワザンショウガイ科 Family Assimineidae

2. ウスイロオカチグサ *Solenomphala debilis* (Gould, 1859) (図版 I-3) (陸産/湿地性)

【記録】水 V-8-1, 2025-xii-7, 1 ex.

【備考】落ち葉の底面接地側に付着(図版 II-2)。同ポイントの水深は 1 cm 以下で極めて浅く, 付着していた落ち葉も川底に沈んでいるのではなく, 水面に触れているだけの状況であったため, 水中にいたものではないと考えられる。元々は沖縄や奄美諸島などに生息する南方種とされているが, 近年では本州四国の各地でも生息が確認されている。なお, このポイントでは上記のとおりホラアナミジンニナも同日に発見している。

カワニナ科 Family Semisulcospiridae

3. カワニナ *Semisulcospira (Semisulcospira) libertina* (Gould,1859) (図版 I-8) (淡水産)

【記録】 水 VII-17, 2019-vii-27, 多数確認; 水 VI-13, 2019-ix-28, 多数確認; 水 VII-17, 2020-vii-18, 3 exs. 確認; 水 V-B, 2021-viii-28, 多数確認 (図版 II-3); 水 VI-13, 2021-viii-28, 多数確認; 水 VII-17, 2021-viii-28, 4 exs. 確認; 水 V-B, 2021-ix-19, 多数確認; 水 VII-17, 2021-ix-19, 3 exs. 確認; 水 V-B, 2021-x-15, 5 exs. 確認; 水 V-B, 2022-iv-30, 4 exs. 確認; 水 VI-13, 2024-iv-14, 多数確認; 水 VI-13, 2024-ix-14, 多数確認; 水 VI-13, 2025-iv-12, 多数確認; 水 VI-13, 2025-v-10, 多数確認; 水 VI-13, 2025-vii-11, 多数確認; 水 IV-11, 2025-iv-12, 5 exs. 確認; 水 I-6, 2025-xi-30, 1 ex.; 水 VI-13, 2025-xii-7, 3 exs.; 水 VII-16, 2025-xii-7, 2 exs.; 水 VII-18, 2025-xii-7, 幼体 2 exs.; 水 VII-19, 2025-xii-7, 幼体 5 exs.

【備考】 過去の調査結果も踏まえると、対象地の多くの水域に広く生息している。かつては水域 V のポイント B には多数の個体が見られたが (図版 II-3), 2025 年 12 月現在同ポイントは枯水しており、見ることはできない。

有肺目 Order Pulmonata

サカマキガイ科 Family Physidae

4. サカマキガイ *Physa acuta* (Drapamand,1805) (図版 I-6) (淡水産)

【記録】 水 VI-12, 2025-xii-7, 7 exs.; 水 VI-13, 2025-xii-7, 5 exs. (図版 II-4) .

【備考】 水域 VI でのみ多数発見した。

モノアラガイ科 Family Lymnaeidae

5. ヒメモノアラガイ *Galba ollula* (Gould,1859) (図版 I-4) (淡水産)

【記録】 水 II-5-2, 2025-xi-30, 3 exs.

【備考】 水域 II にある手水舎の排水部周辺の落ち葉に付着した個体を発見 (図版 II-5)。

6. ハブタエモノアラガイ *Pseudosuccinea columella* (Say,1817) (図版 I-5) (淡水産)

【記録】 水 I-4, 2025-xi-30, 1 ex.

【備考】 水底の落ち葉底面接地側に付着した個体を発見 (図版 II-6)。

二枚貝綱 Class Bivalvia

マルスダレガイ目 Order Veneroida

シジミ科 Family Corbiculidae

7. マシジミ *Corbicula leana* (Prime,1864) (図版 I-7) (淡水産)

【記録】 水 VI-13, 2020-x-31, 死殻 5 exs. 確認; 水 VI-13, 2021-iv-10, 死殻 4 exs. 確認; 水 VI-13, 2021-viii-28, 死殻 2 exs. 確認; 水 VI-13, 2024-iv-14, 稚貝多数確認 (図版 II-7); 水 VI-13, 2024-vi-16, 稚貝多数確認; 水 VI-13, 2024-viii-10, 死殻 1 ex. 確認; 水 VI-13, 2024-ix-14, 死殻多数確認; 水 VI-13, 2024-x-13, 死殻多数確認; 水 VI-13, 2025-vii-11, 1 ex.; 水 I-1, 2025-xi-30, 稚貝 1 ex. (図版 II-8); 水 VI-13, 2025-xii-7, 3 exs. 回収 .

【備考】 水域 I では水底の落ち葉底面接地側にホラアナミジンナと一緒に付着 (図版 II-8)。水域 VI では 2024 年春頃にポイント 13 の砂底にて非常に多くの稚貝を見かけたが (図版 II-7), ほとんどの場合, 見つかるのは砂底に沈んだ成貝の死殻ばかりで, 生きた個体が確認できるのは稀である。なお, 死殻は常に確認できるわけではないことから, 古郷池にて繁殖し, 排水門を経由して同ポイントに流れ着いていると思われる。また, 水域 I は水深が浅く, 成貝が生息するには困難な環境であることから, この場所で繁殖した

のではなく、古郷池で生まれた稚貝がカエルや水鳥等に付着し、移動してきた可能性が考えられる。

【その他（貝類以外）】

海綿動物門 Phylum Porifera

8. 淡水性カイメンの一種

【記録】水 VI-13, 2024-iv-14, 6 exs..

【備考】側溝枠内で小石やマシジミの死殻に付着した複数の個体を発見（図版 III-1）。飼育を試みたが1週間程度で消失。スポンジ状の個体の一部のみ乾燥標本として残っているだけである。

扁形動物門 Phylum Platyhelminthes

9. プラナリアの一種

【記録】水 VI-13, 2019-ix-28, 6 exs. 確認（図版 III-2）；水 VI-13, 2020-x-31, 1 ex. 確認；水 I-4, 2025-xi-30, 1 ex. 確認；水 I-6, 2025-xi-30, 1 ex.; 水 III-7, 2025-xi-30, 1 ex. 発見（図版 III-3）；水 VI-13, 2025-xii-7, 5 exs. 確認。

【備考】各水域において水底の落ち葉やマシジミ死殻等に付着している1 cm程度の小さな個体を確認した。詳細な調査はできていないが、全水域に生息していると思われる。

軟甲綱 Class Malacostraca

端脚目（ヨコエビ目） Order Amphipoda

10. 淡水性ヨコエビの一種

【記録】水 VI-13, 2020-viii-28, 2 exs.; 水 IV-11, 2025-iv-12, 1 ex.; 水 I-1, 2025-xi-30, 1 ex.; 水 I-2, 2025-xi-30, 1 ex. 確認；水 I-4, 2025-xi-30, 2 exs. 確認；水 III-7, 2025-xi-30, 1 ex.（図版 III-4）；水 VII-16, 2025-xii-7, 多数確認；水 VII-19, 2025-xii-7, 1 ex..

【備考】各水域において水底の落ち葉や小石等で確認。同定ができていないため、見つけた個体がすべて同じ種類なのかは不明。

等脚目（ワラジムシ目） Order Isopoda

ミズムシ科 Family Asellidae

11. ミズムシ *Asellus hilgendorfi* (Bovallius, 1886)

【記録】水 VI-13, 2019-ix-28, 多数確認；水 VI-13, 2024-iv-14, 1 ex.; 水 VI-13, 2025-iv-12, 2 exs. 確認；水 VI-13, 2025-xii-7, 5 exs.（図版 III-5）。

【備考】水域 VI のポイント 13 でのみ確認。水底の落ち葉や小石等に付着。

十脚目（エビ目） Order Decapoda

ヌマエビ科 Family Atyidae

12. ヌマエビの一種

【記録】水 VI-13, 2019-ix-28, 多数確認；水 VI-13, 2020-xi-1, 多数確認（図版 III-6）；水 VII-17, 2021-viii-28, 多数確認；水 VII-17, 2021-ix-19, 5 exs. 確認；水 VI-13, 2023-v-4, 多数確認；水 VI-13, 2024-iv-14, 多数確認；水 VII-17, 2024-iv-14, 1 ex. 確認；水 VI-13, 2024-vi-16, 多数確認；水 VI-13, 2024-viii-10, 多数確認；水 VI-13, 2024-ix-14, 多数確認；水 VI-13, 2024-x-13, 多数確認；水 VI-13, 2024-vi-16, 多数確認；水 IV-11, 2025-iv-12, 4 exs.; 水 VI-13, 2025-iv-12, 3 exs.; 水 VI-12 付近, 2025-iv-13, 1 ex.; 水 VI-13, 2025-viii-11, 多数確認；水 VI-13, 2025-viii-17, 多数確認；水 VI-13, 2025-ix-13, 多数確認；水 VII-17, 2025-xii-7, 4 exs. 確認。

【備考】本種は調査対象地の水量のある水域において広く分布している。特に水域VIのポイント13では群生していることが多く、古郷池で繁殖した個体が流れ着いたものと思われる。なお、本種はおそらくミナミヌマエビ *Neocaridina denticulata* (De Haan, 1844) と思われるが、正確な同定ができていないため、ここでは「ヌマエビの一種」とした。

表1. 各水域・ポイント別貝類等リスト

2025年12月現在

水域・ポイント	貝類	その他
水I - 1	ホラアナミジンナ <i>Moria nipponica</i> マシジミ <i>Corbicula leana</i>	淡水性ヨコエビの一種 サワガニ <i>Geothelphusa dehaani</i> カタツムリトビケラ <i>Helicopsyche yamadai</i>
水I - 2	ホラアナミジンナ <i>Moria nipponica</i>	淡水性ヨコエビの一種
水I - 3	ホラアナミジンナ <i>Moria nipponica</i>	—
水I - 4	ハブタエモノアラガイ <i>Pseudosuccinea columella</i>	淡水性ヨコエビの一種
水I - 6	ホラアナミジンナ <i>Moria nipponica</i> カワナ <i>Semisulcospira (Semisulcospia) libertina</i>	ブラナリアの一種
水II - 5-1	ホラアナミジンナ <i>Moria nipponica</i>	—
水II - 5-2	ヒメモノアラガイ <i>Galba ollula</i>	—
水III-7	—	ブラナリアの一種 淡水性ヨコエビの一種
水IV-9	(調査時点で枯水のため未調査)	
水IV-10	(調査時点で枯水のため未調査)	
水IV-11	—	淡水性ヨコエビの一種 ヌマエビの一種 サワガニ <i>Geothelphusa dehaani</i> ※
水IV-A	カワナ <i>Semisulcospira (Semisulcospia) libertina</i>	—
水V - 8-1	ホラアナミジンナ <i>Moria nipponica</i> ウスイロオカチグサ <i>Solenophala debilis</i>	—
水V - 8-2	—	—
水V - B	カワナ <i>Semisulcospira (Semisulcospia) libertina</i>	サワガニ <i>Geothelphusa dehaani</i>
水VI-12	サカマキガイ <i>Physa acuta</i>	ヌマエビの一種 ※
水VI-13	カワナ <i>Semisulcospira (Semisulcospia) libertina</i> サカマキガイ <i>Physa acuta</i> マシジミ <i>Corbicula leana</i>	淡水性カイメンの一種 ブラナリアの一種 淡水性ヨコエビの一種 ミズムシ <i>Asellus hilgendorfi</i> ヌマエビの一種 スジエビ <i>Palaemon paucidens</i> サワガニ <i>Geothelphusa dehaani</i> アカテガニ <i>Chironomus haematocheir</i> ※
水VII-14	(調査時点で枯水のため未調査)	
水VII-15	ホラアナミジンナ <i>Moria nipponica</i>	—
水VII-16	カワナ <i>Semisulcospira (Semisulcospia) libertina</i>	淡水性ヨコエビの一種 サワガニ <i>Geothelphusa dehaani</i>
水VII-17	カワナ <i>Semisulcospira (Semisulcospia) libertina</i>	ヌマエビの一種 サワガニ <i>Geothelphusa dehaani</i> ヘビトンボ <i>Protohermes grandis</i> ※
水VII-18	カワナ <i>Semisulcospira (Semisulcospia) libertina</i>	— ※
水VII-19	カワナ <i>Semisulcospira (Semisulcospia) libertina</i>	淡水性ヨコエビの一種 ※

(注意)「※」については、今回の報告では対象外としたが、調査においてトンボやカワゲラの幼虫やアメンボ類の水生昆虫などが確認されたことを示している。

テナガエビ科 Family Palaemonidae

13. スジエビ *Palaemon paucidens* (De Haan, 1844)

【記録】水 VI-13, 2023-v-4, 1 ex. (図版 III-7) .

【備考】前種のヌマエビの一種が多くみられる側溝柵内で過去一度だけ発見。地理的に海から遡上してきたとは考えられず。古郷池に生息する陸封型がたまたま流されてきたものだと推測される。

サワガニ科 Family Potamidae

14. サワガニ *Geothelphusa dehaani* (White, 1847)

【記録】水 VII-17, 2019-vii-27, 1♂ (図版 III-8) ; 水 VII-16, 2019-viii-10, 多数確認; 水 VII-17, 2019-viii-10, 2 exs. 確認; 水 VII-16, 2019-x-5, 1 ex. 確認; 水 VII-16, 2020-v-23, 稚ガニ 1 ex. 確認; 水 VI-13, 2020-x-31, 稚ガニ 1 ex. 確認; 水 V-B, 2021-viii-28, 5 exs. 確認; 水 V-B, 2021-ix-19, 1♂, 8exs. 確認; 水 V-B, 2021-x-15, 5♂4♀ 確認; 水 VII-16, 2021-x-15, 1♀ 確認; 水 V-B, 2022-iv-30, 2♂; 水 VI-13, 2022-vii-2, 死骸 1 ex. 確認; 水 VII-17, 2022-x-15, 1♂; 水 VI-12 近辺, 2024-vi-16, 1♂ 回収; 水 VI-13, 2024-ix-10, 抜け殻 (甲羅) 1 ex.; 水 IV-11, 2025-iv-12, 稚ガニ 1 ex. 確認; 水 I-1, 2025-xi-30, 死骸 1 ex. 確認.

【備考】本種は栄山自然観察公園の森の広範囲に生息している。しかしながら、水域 V-B では水枯のため現在は見られず、かつては多数確認できた水域 VII においてもほとんど見られなくなっている。

ベンケイガニ科 Family Sesamidae

15. アカテガニ *Chiromantes haematocheir* (De Haan, 1833)

【記録】水 VI-13, 2021-viii-28, 抜け殻 1♂; 水 VI-13, 2024-iv-14, 1 ex. 確認; 水 VI-12 付近, 2024-vii-21, 抜け殻 1♂; 水 VI-13, 2024-viii-10, 1♀ (図版 III-9) , 1 ex. 確認.

【備考】本種は水中よりも陸上で生活することを好むが、水域 VI の水辺で生体及び抜け殻を確認。

昆虫綱 Insecta

広翅目 (ヘビトンボ目) Order Megaloptera

ヘビトンボ科 Family Corydalidae

16. ヘビトンボ *Protohermes grandis* (Thunberg, 1781)

【記録】水 VII-17, 2019-viii-10, 1 ex. (図版 III-10) .

【備考】水際の石の下で幼虫を発見。

毛翅目 (トビケラ目) Order Trichoptera

カタツムリトビケラ科 Family Helicopsychidae

17. カタツムリトビケラ *Helicopsyche yamadai* (Iwata, 1927) (図版 I-9)

【記録】水 I-1, 2025-xi-30, 1 ex..

【備考】水域 I でホラアナミジンナと一緒に水底の落ち葉底面接地側に付着した筒巢 (幼虫有り) を発見 (図版 III-11)。本種は小型の水生昆虫の一種で、幼虫は砂粒を用いてカタツムリの貝殻に酷似した 1 ~ 3mm 程度の筒巢を作り、水中で生活している。

まとめ

調査の結果、本地域から淡水産 5 科 6 種、湿地性の陸産 1 科 1 種の貝類を記録することができた。また、

調査水域で発見されたその他 10 種についても併せて過去分を含めて整理し、記録することもできた。

これらの内、レッドデータブック掲載種などの重要種は、ホラアナミジンナ（図版 II-3, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 準絶滅危惧）、マシジミ（図版 I-7, 環境省 RDB: 絶滅危惧 II 類, 山口県 RDB: 情報不足）、カタツムリトビケラ（図版 I-9, 山口県 RDB: 絶滅危惧 II 類）の 3 種であり、これを踏まえると、栄山自然観察の森は生き物にとって良好な環境であると考えられる。

なお、現在、小郡地域における生き物の調査報告は少なく、今回の調査結果は、小郡地域の生物相を研究する上で有益な情報であると考えられる。

特にこの度の調査の重点対象であったホラアナミジンナは、古郷池（水域 VI）や時期によって水量や流速が変化する矢足天井川（水域 IV）や大歳川（水域 VII）の本流筋では確認できなかったが、湧水が緩やかに流れる浅い小川では広く分布していることが判明し、山口県における同種の新しい生息地の発見となった。

また、ウスイロオカチグサやカタツムリトビケラについても山口県内での発見報告は多くなく、小郡地域では初めての記録と思われる。

今回の調査では、枯水をしている箇所が複数あったことから、水が流れている時期において貝類等が生息しているのか改めて調査を行うとともに、継続的に各ポイントの調査を行うことで、生息状況の推移を記録していきたい。

謝 辞

本稿を作成するにあたり、増野和幸氏（豊田ホテルの里ミュージアム）には、ホラアナミジンナの探し方、採集した貝類等の同定や図版 I、II-8 の作成、そして原稿内容についての指摘・助言をいただきましたことに対し深く感謝申し上げます。

参考文献

- 福田 宏・増野和幸・杉村智幸（1992）概説 山口県の貝類，41-42，57-58pp.，山口県立山口博物館，山口。
- 近藤繁生・谷 幸三・高崎保郎・益田芳樹（2005）ため池と水田の生き物図鑑 動物編，20-22，25-30，48-49pp.，トンボ出版，大阪。
- 増野和幸・川野敬介（2020）下関市豊浦町の陸産・淡水産貝類．豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書，(12): 1-37.
- 増野和幸・佐々木隆志・渡辺勝美・原 大和・高橋拓大（2025）島根県西部におけるホラアナミジンナの新な生息確認．豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書，(17): 1-5.
- 西 浩孝（2013）豊橋市内で確認されたウスイロオカチグサ．豊橋市自然史博物館研報，(23): 19-21.
- 小郡町役場（1999）知っ得！小郡「自然満喫 栄山自然観察の森完成」．広報おごおり，(622): 2-3，旧小郡町。
- 武田晋一（2022）貝のふしぎ発見記，38-39pp.，少年写真新聞社，東京。
- 豊田幸詞・関 慎太郎（2019）日本産 淡水性・汽水性エビ・カニ図鑑，42-71，94-95，136-137，210-211pp.，緑書房，東京。
- 山口県環境生活部自然保護課（2019）レッドデータブックやまぐち 2019 - 山口県の絶滅のおそれのある野生生物 -（Web 版）. <https://yamaguchi-rdb.com/site/index.php>.
- 山口むしの会昆虫目録制作委員会（編）（2018）山口県の昆虫目録 2018，山口むしの会。

図版I (Plate I)



山口市小郡山手下産淡水貝およびカタツムリトビケラの筒巢

1. ホアラナミジンニナ (正常型) ; 2. ホアラナミジンニナ (殻表面被覆型) ; 3. ウスイロオカチグサ ; 4. ヒメモノアラガイ ; 5. ハブタエモノアラガイ ; 6. サカマキガイ ; 7. マシジミ ; 8. カワニナ ; 9. カタツムリトビケラ (筒巢) .

図版II (Plate II)



山口市小郡山手下産淡水貝の発見状況

1. ホラアナミジンナ; 2. ウスイロオカチグサ 3. カワニナ; 4. サカマキガイ ※右下に写っているのはミズムシ; 5. ヒメモノアラガイ; 6. ハブタエモノアラガイ; 7. マシジミ (白い部分は全て水管); 8. マシジミ (稚貝) ※左上に写っているのはホラアナミジンナ.

図版III (Plate III)



山口市小郡山手下産の水生物

1. 淡水性カイメンの一種； 2. プラナリアの一種 3. プラナリアの一種（ナミウズムシ）； 4. 淡水性ヨコエビの一種； 5. ミズムシ； 6. ヌマエビの一種； 7. スジエビ； 8. サワガニ； 9. アカテガニ； 10. ヘビトンボの幼虫； 11. カタツムリトビケラの筒巢（幼虫有り）。